

会議録

会議の名称	令和7年度 第2回 福津市立図書館協議会	
開催日時	午後2時00分から 令和7年11月11日(火) 午後3時15分まで	
開催場所	福津市立図書館 研修室2	
委員名	(1) 出席委員 安徳委員、河井委員、田島委員、立山委員、 山元委員、 (2) 欠席委員 市川委員、立石委員、安河内委員、吉住委員	
所管課職員職氏名	芹野(郷育推進課長)、長友(市立図書館長) 森(カメリアステージ図書館長)、堤田(市立図書館サービス係長)、 田中(市立図書館管理係長)	
会議	議題(内容)	令和6年度福津市の図書館評価について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	0名
	資料の名称	① 会議次第 ② R6年度福津市の図書館評価(案)
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	記録内容の確認方法	会議出席委員による確認
内容に相違ありません。 委員		(印)
その他の必要事項		

協議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 開会のあいさつ
2. 会長あいさつ
3. 協議事項

協議事項 「令和6年度福津市の図書館評価について」

(事務局) 資料「令和6年度福津市の図書館評価(案)」に沿って概要説明。

(立山委員) 映像機器の故障は修理出来ないのか。

(事務局) 元々常設されているもので、修理費用が少額ではないため予算的に今すぐの修理は難しい。

(立山委員) 評価項目⑦「職員の専門性の向上」の評価が低くなっているが、研修の受講回数が少ないので、時間的な問題で受講できなかったのか、それとも目標自体が高すぎたのか。

(事務局) 研修そのものの回数が減っていることと、職員が休職するなどの人的問題が影響して受講回数が少なくなっている。

(河井会長) 直接的な研修だけでなく間接的な研修内容のものも含めれば受講できる研修はあると思う。例えば、読書バリアフリー法に対応した障がい者サービスを考える時に、どういう障がいがあるのか知らずに本を手渡すのは難しい。本の知識だけでなく対象者に関する知識や理解がないと適切なサービスは提供できない。そう考えれば受講すべき研修の幅は広がる。

(山元委員) 「今後の方向性・改善策等」に『先進的な自治体(図書館)の事例に学ぶ』と記載しているように、ニーズに合わせて自由に見学に行って新しい情報を得るなど、既成のセミナーではない学び方もある。

(田島委員) ⑦職員の専門性の向上の評価が低いのは勿体ない。

(安徳委員) 資料の9ページに『図書館利用に関するアンケート調査』で不満の一番の理由が「一般書・視聴覚資料の種類や数が少ない」という結果になっている。予算のことを考えれば、すぐに種類や数を増やすのは難しいだろう。これらの不満や要望にどのように応えていこうとしているのか伺いたい。

(事務局) アンケートをとって、要望を叶えたいがもどかしさを持つつ、お金をかけずに工夫して、検討、対策、改善し利用者の声に応えられる様に予算が無いなりにやっていかなければないと感じている。

(河井会長) アンケートの返事はしているのか。

(事務局) 返事は出していない。要望全てに応えられるわけではないが、何らかの形で回答するべきだと考えている。

(河井会長) 資料 6 ページの雑誌スポンサー制度だが、スポンサーがつけば雑誌を購入するお金が浮くと思うが。

(事務局) 商工会が会報誌を出すタイミングで、雑誌スポンサーの募集案内と一緒に配ってもらったが、結果として新規スポンサー契約にはつながらなかった。

(河井会長) 実際に会って説明しないと動いてもらうのは難しい。商工会の会合に行って説明したらよいのではないか。

(立山委員) 宣伝にならないとメリットを感じない。井原書店は雑誌スポンサーになっているのか。

(事務局) 令和 6 年度まで雑誌スポンサーだった。目標の 7 者 10 冊を下回らないようにしたい。

(河井会長) 成功している所は、更新してもらえる様に「まだ続けて下さい」と足を運んでいる。雑誌スポンサーを続けてもらうには人の関わりが大切だ。

(山元委員) 旅行雑誌やグルメ雑誌などは、図書館に置くことでお店を利用する人が増えれば出版社にとってメリットになる。そういう出版社に出向いて雑誌スポンサーになってもらうという方法もある。

(山元委員) 話がもとに戻るが、アンケートで視聴覚資料の種類が少ないという意見や映画会が無くなるという話があった。最近では、図書館での映画会が減り、代わりに個人ブースで視聴するような形に移っている。図書館でネットフリックスやアマゾンと契約することはできないのか。

(河井会長) 団体での契約は高額になるので難しいのではないか。

(事務局) 視聴ブースは設置しているが、利用者としては“新作が見たい”という意味で“種類が少ない”という不満が出ていると思われ

る。新作は少ないが、古いものを含めればある程度は揃えている。

(河井会長) 世の中の流れを考えるとＤＶＤ等の視聴は、今後ネットに流れていいくだろう。そこにお金をつぎ込むことには慎重になったほうが良い。山元委員から意見をもらったように、ネットの中に図書館で提供できるものがないか調査研究することも必要だ。

(山元委員) 資料 15 ページの評価項目⑥読書ボランティア養成講座受講者数の評価が 2 になっている。宣伝方法を伺いたい。読書ボランティアに関心のある人は他の講座に参加していることが多いので、その折にチラシを配ったり、既に読書ボランティアをしている人の口コミも効果的だ。

(事務局) 読書ボランティア養成講座の申込は減少傾向である。読み聞かせの知識は得たいが読書ボランティアはハードルが高いという声がある。まずは受講してもらい、知識を得てうまくいけばボランティアにつなげるなど、長い目で見ることも今後必要と考えている。

(河井会長) 読書講座と読書ボランティア養成講座を合体させたような形になりますね。

(山元委員) その考えには賛成だ。

(事務局) 読書ボランティアが高齢化し、どの団体も若い人を増やしたいと思っている。

(河井会長) 「自分の子どもに絵本を読んでいますよね、他の子どもたちにも読んでみませんか」というような“誰でもできるボランティア”として誘うのではなく、例えば、「自己実現の為のボランティア」というような位置づけを明確に打ち出したほうが若い人の心に響きやすいと思う。

(立山委員) 学生さんなどにボランティアをしてもらうのはどうか。

(河井会長) とても良いと思う。

(山元委員) 大学の保育科の学生はとても熱心にボランティアをしている。

(河井会長) 学校の先生に依頼してチラシを配るなど、働きに行く前の人たちがボランティアをするというのも一案だ。

(山元委員) 例えば、保育短大などでは、読み聞かせだけでなく、壁面構成など実習の一環で図書館を提供してもらったりしているので、そういう連携もできるかもしれない。

(田島委員) 全体を見て思うのは、全てにおいてお金が絡んでくる。予算の獲得方法を郷育推進課として、例えば市議会の委員会の中で必要性を訴えるなどしてみてはどうか。

(河井会長) ただ積み上げて予算要求するだけでは予算獲得は難しくなっている。この評価案の中に「資料費の増額について努力します」等の文言は無いが、それを書く必要があるのではないかと私も感じた。

(事務局) はい、謳っておかないといけないと思います。

(山元委員) 色々な数値のところに「電子図書は除く」と記載されている。今までの会議の内容を思い返すと学校での電子図書館の利用が多いという話があったと記憶しているが、そういった成果はどこに反映されているのか。

(事務局) 資料4ページの①、②に電子図書館評価項目について記載している。

(河井会長) R6年度の福津市図書館評価として今日の意見を反映し公表することでよいか。

(出席委員) 異議なし

4. 次回の日程について

(事務局) 第3回目は2月頃を予定している。

以上